

常磐大学創立 40 周年記念国際シンポジウム

複合的危機における 地域社会の安全・安心

～これからの地域社会のあり方を考える～



G7 茨城水戸内務・安全担当大臣会合推進協議会連携事業

2023 年 9 月 19 日 (火)

10 時 00 分 ~ 15 時 30 分 (受付 9 時 20 分 ~)

会場：常磐大学 Q 棟センターホール

主催：常磐大学

後援：茨城県、G7 茨城水戸内務・安全担当大臣会合推進協議会
茨城県警察本部、水戸市

プログラム

10時00分～10時15分 開会式

- ◇ 開会挨拶 常磐大学学長 富田 敬子
- ◇ 来賓挨拶 茨城県知事 大井川 和彦 様
- ◇ 来賓挨拶 警察庁長官官房参事官（国際担当） 秋本 泰志 様
- ◇ 来賓紹介

10時15分～10時40分 基調講演

「複合的危機下の世界—国連が直面する試練—」

ステファン・シュヴァインフェスト *Stefan Schweinfest* 氏 国連本部経済社会局統計部長

10時50分～12時30分 セッション1 地域社会の安全

- ◇ 特別報告「茨城県の治安情勢と警察の対応」
藤野 秀彦 氏 茨城県警察本部警務部長
- ◇ 発表「韓国におけるコロナ禍の犯罪動向-社会統制と監視-」
カン・ギョンレ 姜 暎來 韓国・大邱カトリック大学社会科学部警察行政学科教授
- ◇ 発表「更生を阻害する社会的要因～地域社会が果たすべき役割」
山梨 光 貴 常磐大学総合政策学部法律行政学科助教
- ◇ 発表「インドの犯罪被害者支援～ジェンダーに基づく犯罪に焦点を当てて」
M・スリニバサン *M. Srinivasan* インド・マドラス大学犯罪学科長・教授

12時30分～13時20分 休憩

13時20分～15時00分 セッション2 地域社会の安心

- ◇ 特別報告「複合的危機がもたらした市民生活への影響と水戸市の子育て支援」
高橋 靖 氏 水戸市長
- ◇ 発表「コロナ禍での地域保健医療サービスの変容～フィリピンを例に」
ニール・M・マーティン *Neil M. Martin* フィリピン・ミンダナオ州立イリガン工科大学保健科学部准教授
- ◇ 発表「複合的危機における人材育成」
柴原 宏一 常磐大学人間科学部教育学科特任教授
- ◇ 発表「自殺念慮を抱える人々への支援に向けて」
小森田 龍生 常磐大学人間科学部現代社会学科准教授

15時10分～15時25分 大会提言

佐々木 一如 常磐大学総合政策学部総合政策学科准教授

15時25分～15時30分 閉会式

- ◇ 閉会挨拶 常磐大学副学長 村井 文江

登壇者・モデレーター プロフィール

【基調講演】



ステファン・シュヴァインフェスト *Stefan Schweinfest* 氏 国連本部経済社会局統計部長

パリ大学にて数理経済学修士号取得。1989年、ニューヨークの国連本部経済社会開発局入職。主に統計分野において、長年、世界的な統計情報の整備、統合、国際標準化に取り組む。とりわけ、世界の地理空間情報の管理と統計能力向上プログラムの構築に尽力した。2014年、統計部長に就任。以降、世界中から国家統計機関長が集まる国連統計委員会を、書記長として束ねている。また、SDGs 達成に向けた進捗状況を計るための指標の策定、モニタリングの枠組み作りにおいてもリーダーシップを発揮した。

【セッション1】 地域社会の安全

藤野 秀彦 氏 茨城県警察本部警務部長

平成2年(1990年)警察庁入庁。平成12年(2000年)4月から2年間在ベトナム日本国大使館二等書記官、平成14年(2002年)4月から在カナダ日本大使館二等書記官。平成16年(2004年)5月警察庁国際テロリズム対策課付・課長補佐。その後、京都府警察本部公安課長、警察庁警備企画課課長補佐、内閣衛星情報センター、沖縄県警察本部警務部参事官、愛知県警察本部警備部長、警察庁公安課理事官、警察庁警備指導室長、等を歴任。令和5年(2023年)7月より現職。



カン・ギョンレ 姜 暻來 韓国・大邱カトリック大学社会科学部警察行政学科教授

中央大学大学院法学研究科後期課程修了。法学博士。専門は刑事法、犯罪学、被害者学。有斐閣『判例刑法総論』(2009年)の韓国語訳『日本刑法代表判例(総論)』を出版(2014年)。韓国少年政策学会、韓国社会安全犯罪情報学会、韓国法学会の副会長、また韓国矯正学会、韓国保護観察学会の常任理事等、学術団体の役職多数。韓国法務部(法務省)の人権教育講師。少年犯罪、再犯防止、犯罪者の更生、の分野で研究・教育、論文執筆に取り組む。



山梨 光貴 常磐大学総合政策学部法律行政学科助教

専門は犯罪学・刑事政策。博士(法学)。罪を犯した人たちの社会復帰プロセスに関する研究を中心に、性暴力被害の実態調査やコロナ禍における犯罪動向の実証研究などに携わっている。犯罪・非行を研究する若手研究者ネットワーク(ECCRN)キャリア役員(2023年4月~)。中央大学法学部通信教育課程インストラクター、日本比較法研究所リサーチアシスタント、日本歯科大学非常勤講師などを経て2022年より現職。



M. スリニバサン *M. Srinivasan* インド・マドラス大学犯罪学科長・教授

専門は犯罪学、被害者学。マネーロンダリングの研究で、独・マックス・プランク学術振興協会のフェローシップを2度受賞。Victim Support Asia 創設メンバー兼理事。インド被害者学会副会長、インド犯罪学会執行委員。ユニセフ、インド政府内務省、インド政府国際女性委員会、タミル・ナードゥ州政府等から23の研究プロジェクトを受託。被害者支援の制度設計や刑事司法改革に国内外で精力的に携わる。



セッション1 モデレーター

千手 正治 常磐大学総合政策学部法律行政学科教授

専門は犯罪学、被害者学、刑事法。「諸外国の修復的司法」中央大学出版部(2004年)、「演習ノート刑事政策(第10版)」法学書院(2010年)、「高齢者犯罪の総合的研究」風間書房(2021年)等を共著。日本の刑事政策や被害者支援制度のほか、ニュージーランド事情にも精通し論文・発表多数。警察官等公安職を目指す学生に勉強会を主催。熱のある指導に定評がある。公益財団法人いばらき被害者支援センター理事。

MEMO

【セッション2】 地域社会の安心



高橋 靖氏 水戸市長

日本大学新聞学科卒業。明治大学大学院政治経済学研究科修士課程修了。1995年水戸市議会議員当選（3期）、2005年茨城県議会議員当選（2期）、2011年水戸市長当選。「安心できる暮らしの実現」を政治理念に現在4期目。これまでの取組をさらに発展させ「水戸 Next Mission」として5つのプロジェクト、73の施策を推進。常磐大学客員教授。著書に「水戸市役所『みとの魅力発信課』（ぎょうせい（2014年））、「実践・市民とつくる公共政策—持続可能なまちづくりをめざして」（ぎょうせい（2018年））など。



ニール・M・マーティン Neil M. Martin

フィリピン・ミンダナオ州立イリガン工科大学保健科学部准教授

看護師・保健師。看護学修士号、ビジネス教育修士号を併せ持ち、ザビエル大学アテネオ・デ・カガヤン教育学部（ナガヤン・デ・オロ市）で教育学博士号を取得。メンタルヘルスや心理社会的支援に強い関心を持ち、地域住民の健康と文化の向上にリーダーシップを発揮。看護師の社会的地位や福祉の向上にも尽力。大学で教鞭をとりながら、現在、シリマン大学（ドゥマゲテ市）で自身の看護学博士号の取得に取り組んでいる。



柴原 宏一

常磐大学人間科学部教育学科特任教授

公立高校教諭として勤務後、県教育委員会で教育行政に携わり、最後は県教育長を務めるなど、教育全般にわたる幅広い経験を持ち、研究分野も教育制度、教育行政、教育法規、教員養成、教師教育、ICT教育、オンライン教育等多岐にわたる。現在は、茨城大学アドミッションセンター長として入学選抜の改革に取り組む一方、常磐大学の特任教授として、教員を目指す学生に子どもの将来を見据えた教育の大切さについて熱く説いている。



小森田 龍生

常磐大学人間科学部現代社会学科准教授

専門は過労死・過労自殺、性的少数者のメンタルヘルス問題等に関する社会学的研究。博士（社会学）。著書『過労死の社会学—その原因条件と発生メカニズム』（2018年）により、日本社会病理学会・2019年度研究奨励賞受賞。専修大学社会知性開発研究センター・情報通信研究センター・リサーチアシスタント、学習院大学国際センターPD共同研究員、日本学術振興会・特別研究員（PD）・上智大学を経て2022年より現職。



セッション2 モデレーター

会沢 紀子 常磐大学看護学部看護学科准教授

看護師・保健師、看護学修士。専門は国際・災害看護。赤十字病院で病棟や手術室、地域医療連携室で勤務する傍ら、スーダンやアフガニスタンでの戦傷外科看護（赤十字国際委員会）や、イラン、スマトラ島、ハイチ地震後の救援復興事業（国際赤十字連盟）に携わる。2014年より獨協医科大学（地域看護学講師）、日本在住外国人の健康や災害時の備えの研究活動を行う。2022年より現職。

【大会提言】



佐々木 一如

常磐大学総合政策学部総合政策学科准教授

明治大学危機管理研究センター研究員、日本都市センター研究員、明治大学専門職大学院ガバナンス研究科特任講師を経て現職。専門は行政学、公共政策論、危機管理論。非常事態発生時の行政組織の対応について研究を行ってきた。近年は、公的組織におけるリーダーシップのあり方についても研究を進めている。

【総合同会】



ケビン・マクマナス Kevin McManus

常磐大学人間科学部コミュニケーション学科准教授

2007年、カリフォルニア州立大学フレズノ校の交換留学生として来日。帰国後、同大学大学院で英語教授法を専攻し修士号取得。その後再来日し、本学や筑波大学で国際交流や英語学習プログラムに従事。2016年常磐大学に教員として採用され英語科目やSDGsのプロジェクト科目を担当。共著に、「地球市民として生きる—英語で学ぶSDGs実践入門」南雲堂（2021年）。